

都・建設予定地 生活記 (8)

あまり良く知られていないインドの西・グジャラート州で生活しながら、なんとかこの片田舎を都にしてみようと足掻く僕的生活記。

「今、俺はインドのにおいがしやしないか」というのが、一時帰国初日、久々に日本の澄んだ空気を吸い込み、電車やバスに揺られて家路についている時に、誰もが心配することのひとつじゃないかと思う。肩を揉むふりでもしながら、服のにおいを嗅いでみる。ううん、特ににおっている感じはない。大丈夫だろうとは思いますが、やはり気になる……。

インドに長くいて、鼻がインド化しているんじゃないだろうか。

実は六月の上旬に、二週間、一時帰国していた。実に一年ぶりの帰国だった。一年ぶりの帰国ともなると、やりたいことは次々浮かんでくる。塵も積もれば山となるとは言うが、ひとつひとつが塵どころの大きさではないので、二週間では収まらないくらい、やりたいこと・買いたいものの山は大きくなってしまっていた。

もちろん、一番したかったことは日本食を食べること。特に肉と酒、グジャラート禁忌飯を食べることである。ベジタリアン州のグジャラートの片田舎(州都のはずなんだけど)、普段、鶏肉もあまり食べないのだから、この機会に出来るだけ食いだめしておきたい。

肉といえば牛肉、牛肉といえば焼き肉、と連想するのは自然なことだと思う。

成田空港に着いたのはお昼すぎ。夕方から人と会う約束はあったが、お昼を食べる時間くらいはありそうだった。においを気にしながら降りた駅で、辺りを見回すと一軒の焼肉チェーンが目に入った。もちろん、昼から一人で焼肉を食べるつもりはない。つもりはないが、例えば夕飯のためにメニューくらいチェックしてもバチは当たるまい。それに一年ぶりなのである。

店の外に貼られたチラシには、肉の盛り合わせ写真がでかでかと載っていた。赤身もあれば内臓もある。照明や撮り方も、食欲を煽るように細心の注意が払われているに違いない、ひとつひとつの肉に脂も乗って本当に美味しそうだ。

——と、日本にいたらまずそう思うはずの写真だった。

あろうことか、僕がその写真を見た時思ったのは「あ、これは脂っこそうだ」だった。普段食べてないものの写真を前に、胃もたれしそうになるのを感じる自分に気づいた時、これはインド化しているのは鼻どころではないぞ、と焦った。胃のグジャラート化である。だが焦ったところですぐに食べたくなるわけでもない。この一時帰国中にリベンジしてやろうと、結局食べたのはファミレスの「うどん付きマクロ御膳」だった。とにかくさっば

りしたもの、と選んだ。これくらいさっぱりしたものなら、その時の僕でも食べる気になったのだ。

美味しく完食した数時間後、胃はマグロ御膳の消化を拒否し、僕はトイレに籠ることになる。

胃が再び日本化したのは、二日後のことだった。それからは暴飲暴食の限りを尽くし、再びグジャラートに戻ってきた。たぶん今は、もうインドの胃になっている。

プロフィール：滝口浩平

2010年から約1年間のデリー留学を経て、東京外大ヒンディー語専攻卒業。色々あって塾・予備校の市進に雇われ、また色々あってインド現地法人 Ichishin India Consultant.Pvt.Ltd 社員となる。更に色々あって日本語教師として Pandit Denndayal Petroleum University (PDPU) で教鞭をとる。第29回織田作之助青春賞受賞。